

ダイヤモンド クォーターリー
創刊 8 周年記念フォーラム

2025年2月17日(月)
@大手町三井ホール
リアル&ライブ配信

ご協賛
申込〆切
12月13日
(金)

DIAMOND
Quarterly

乱世を生き抜くための「シン・日本的経営」

変革と価値創造 (仮称)

経営資源をダイナミックに再構築し、新たな成長ステージを切り拓く

<ご協賛対象企業>

経営資源となるヒト (組織/HR)・モノ(製品/技術)・ファイナンス (管理/戦略)・情報(データ/デジタル)分野のソリューションやサービス提供企業

[経営管理/戦略] 経営戦略コンサルティング、事業変革支援、企業変革支援、テクノロジー導入支援サービス
[データ/デジタル] DXコンサルティング、デジタル・ケイパビリティ構築支援、 R&D戦略支援サービス
[組織/HR] HR系各種支援ソリューション、組織マネジメントサービス
[製品/技術] AI・BI・IT・IoT・5G、シュミレーション / デジタルツインソリューション、ディープテック、製造向けプラットフォーム
[ファイナンス] 経営管理システム、ERP/EPM、管理会計・財務ソリューション、IBP、データ分析基盤・経営プラットフォーム

◎シン・日本的経営 ～失われた 30年と擬態経営からの脱却

日本の産業界は、明治以来とりわけ戦後以降、積極的に欧米企業に学び、その長所や経営手法を選択的に取り込みながら、製品、事業、人材、経営を進化させ、ついには「日本的経営」という世界に類を見ない独自のマネジメントシステムを確立しました。しかし、東洋の奇跡と称された高度成長によって成功体験に囚われるという罠にはまり、バブル経済崩壊後は、自信喪失により日本的経営を否定。経営のグローバルスタンダード化という名の下に、欧米の経営理論や手法、ベストプラクティスを安易に導入するようになります。世界標準を目指して変身する、言わば「擬態」型の経営を行ってきました。この擬態経営の歴史は、皮肉にも「失われた 30年」と重なっています。

国の歴史や風土、文化、社会規範、地政学的要因等が異なる以上、そもそも経営のグローバルスタンダードなど存在しえないのではないのでしょうか。アメリカのゼネラル・エレクトリック（GE）やプロクター・アンド・ギャンブル（P&G）、オランダのフィリップス、ドイツのシーメンスなどは、実のところ創業者の理念や価値観、発祥の地の歴史や文化を今もなお大切にしており、その象徴的存在として度々紹介されています。日本企業も欧米のベストプラクティスの模倣や輸入ではなく、21世紀の日本企業にふさわしいマネジメントを再発明すべきではないか。私たちダイヤモンドクォーターリーは、この『シン・日本的経営』を編集コンセプトとして掲げ、日本企業ならではの「変革と価値創造」の姿を追求しています。

◎先進企業に学ぶ「変革と価値創造」

「シン・日本的経営」を目指すことは、自社の「経営資源」を捉え直し、それらをダイナミックに再構築することでもあります。実際、その重要性に気づき、覚醒した企業も出現しています。ファーストリテイリングやニデックなど、失われた 30年の間に指数関数的成長を遂げた企業も存在しているのです。こうした先進企業は、何をどのように「変革」し、いかに「価値創造」をしてきたのか —— 。それを学ぶことは、「シン・日本的経営」を考えるうえで大きなヒントとなるでしょう。

◎「22世紀まで必要とされる企業」となるために

日本は100年以上続く長寿企業が世界一多い国です。しかし、変化が常態化した現在、同じところに留まり続けていては数年後の存続すら危ぶまれる時代となりました。乱世といわれる中で自らの存在意義を世界に向けて発信し、「22世紀まで必要とされる企業」となるためにも、「シン・日本的経営」へと経営のOSをバージョンアップする時が来ているのではないのでしょうか。そこで、創刊8周年を記念する本フォーラムでは、『シン・日本的経営』とそれに伴う『変革と価値創造』をテーマに掲げ、それらを実践する先進企業の経営者やアカデミアとともに、日本企業の針路を考えてまいります。新たな成長ステージを目指す、多くのエグゼクティブのご来場をお待ちしております。

<イベント概要>

名称:ダイヤモンド クォーターリー創刊 8周年記念フォーラム
タイトル:乱世を生き抜くための「シン・日本的経営」
変革と価値創造 一経営資源をダイナミックに再構築し、新たな成長ステージを切り拓くー (仮題)
主催:ダイヤモンド社 メディア局
協 賛:ダイヤモンド クォーターリー編集部
日 程:2025年2月17日(月)開催
形 式:リアル開催 + ライブ配信
会 場:大手町三井ホール(<https://otemachi-hall.jp/access.html>)
参加費用:無料(事前登録制／抽選)
想定客数:550-600名(総登録リード数)【リアル】 150-200名 【ライブ配信】 400名

※リアル開催とライブ配信の申込比率は保証いたしません。
※歩留まり(参加率)は 5割程度を想定しています。

<プログラム>

13:30 開会
13:30-14:15 (45分) 基調講演 : 鈴木一人 氏(東京大学公共政策大学院 教授 | 国際文化会館 地経学研究所 所長)
14:15-14:45 (30分) 協賛講演①: ~~プレゼンテーション~~ SOLD OUT
14:45-15:15 (30分) 協賛講演②: プレゼンテーション
15:15-15:30 (15分) 休憩 : コーヒーブレイク
15:30-16:20 (50分) 基調対談 : 名和高司 氏(京都先端科学大学 教授 | 一橋ビジネススクール 客員教授)
澤田 純 氏(NTT 取締役会長)
16:20-16:50 (30分) 協賛講演③: プレゼンテーション
16:50-17:20 (30分) 協賛講演④: プレゼンテーション
17:20-17:50 (30分) ラップアップセッション:名和高司 氏(京都先端科学大学 教授 | 一橋ビジネススクール 客員教授)
17:50 閉会

※講演内容により、時間が前後する可能性もございます。
※3社以上のご協賛により、当企画が成立いたします。予めご了承ください。

【免責】新型コロナウイルスの流行等、世の中の状況によっては主催社の判断により、延期または中止する可能性があります。

< 基調講演 >

テーマ：トランプ再来で世界はどう変わるか。経済安全保障の論点と日本企業の針路（仮）

講師：鈴木一人氏（東京大学公共政策大学院 教授 | 国際文化会館 地経学研究所 所長）

◎なぜいま、企業に「経済安全保障」という戦略が必要なのか

グローバル化と自由主義経済を謳歌する時代は終わりを迎えた。混迷を迎える世界の中で、企業はグローバル化のリスクを突き付けられている。なかでも喫緊の課題が「グローバルサプライチェーンの強靱化」だ。独自の技術やビジネスモデルによる戦略的自律性、なくてはならない存在となる戦略的不可欠性、この両方を備えた、企業版「経済安全保障」という戦略が極めて重要となる。トランプ第二次政権発足直後のタイミングで開催する当フォーラムでは、経済安全保障および地経学研究の第一人者である鈴木一人教授をゲストスピーカーにお招きし、トランプ後の世界における「経済安全保障の論点」と「日本企業がとるべき針路」を解説いただく。

< 基調対談 >

> **テーマ：経営のOSをバージョンアップし、成長ダイナミズムを取り戻す「シン・日本的経営」**

講師：名和高司氏（京都先端科学大学 教授 | 一橋ビジネススクール 客員教授）

澤田純氏（NTT 取締役会長）

◎日本企業が「成長のダイナミズム」を取り戻すためには

長らく経営の世界では、グローバル化の必要性が喧伝されてきた。欧米流経営＝世界標準と崇め、周回遅れでそれを取り入れ続けてきたことで、日本企業は「軸」がぶれ続けていたのではないか。議論の入口は「欧米流の経営手法とどう向き合うか」「自分たちの軸をどう取り戻すか」から始まる。時代の岐路に立つ日本企業が経営のOSをバージョンアップし、成長のダイナミズムを取り戻すには何が 필요한のか。NTTという巨大企業グループで聖域なき改革を断行してきた澤田純会長と、日本企業の経営改革を長年支援してきた名和高司教授が乱世を生き抜き、22世紀まで必要とされる企業となるための「シン・日本的経営」について考察する。

<イベント協賛枠・料金>

協賛講演①② ————— 4,800,000円 (税抜)

協賛講演③④ ————— 4,500,000円 (税抜)

※歩留まり(参加率)は 5割程度を想定

※講演内容について、DQ編集部よりアドバイスをを行うことも可能です。詳細はお問い合わせください。

※協賛講演枠の仮押さえも承ります(期間: 1週間)。状況により期間を指定をさせていただく場合がございますので、予めご了承ください。

<実施内容>

■企画/運営

- ・イベント企画・進行管理
- ・登録者管理
- ・イベント当日の運営・管理

■告知/集客

- ・各種メールマガジン配信
- ・告知ページ、登録フォーム作成など

■イベントレポート

- ・DQオンラインでのイベント全体レポート
- ※個社のレポートはオプションとなります。

<協賛内容>

■協賛特典

- ・30分間の講演枠
- ※講演中に資料の掲示やデモの実施などが可能です。
- ・申込者リスト(プロフィール)情報提供(550-600件想定)
- ・実施報告書(イベントレポート)
- ※参加者のアンケートやユーザーの各種情報報告となります。

<追加オプション>

- ダイヤモンド クォーターリーへの採録記事掲載(誌面/オンライン)
- ・誌面のみ掲載 : 2,000,000円(税抜) ※掲載号は2025夏号となります
- ・誌面+オンライン転載 : 2,500,000円(税抜) ※2,500PV保証付き
- ・オンラインのみ掲載 : 2,500,000円(税抜) ※10,000PV保証付き
- 二次利用(動画素材のご提供): 500,000円(税抜) ※自社ご協賛パートの講演のみ

<申込締切>

2024年**12月13日(金)**まで ※協賛講演枠が埋まり次第、終了となります。

<ご登壇者プロフィール／ご講演タイトル／プライバシーポリシー URLのご提供>

2024年**12月19日(木)**まで ※雛型をお送りいたしますので、ご入力のうえご提出いただきます。

<開催前のスケジュール>

- ・告知ページ公開 :2024年12月23日(月)予定
- ・開催日 :2025年 2月17日(月)決定 ※ライブ配信も行います。

<開催後のスケジュール>

- ・参加者リストのご提供:2025年2月20日(木)まで
- ・実施レポートのご提出:2025年2月25日(火)まで
- ・採録レポートの公開(オンラインの場合):イベント開催後1ヶ月半～2ヶ月後

※詳細スケジュールはお申込後にあらためてご連絡いたします。

<DQオンライン掲載イメージ>

イベント全体のレポート (ご協賛特典・全社共通)

2020年代、日本のものづくり企業は再浮上する
創刊4周年記念フォーラム報告
ダイヤモンドフォーラム編集部
2020.12.11 5:00 全社共通

2020年9月29日、『ダイヤモンドフォーラム』は、創刊4周年記念フォーラム「創始なき未来に向けて『日本のデジタル経営』を掲げる」。基調講演には、東京大学教授の藤本隆成氏が登壇し、「サービス化・デジタル化・構成員・米中産業競争の関わり」の「ものづくり」戦略、という流れでプレゼンテーションを行った。これに続いて、レイヤーズ・コンサルティングの杉野高広氏、オトメーション・エコウェア・ジャパンの由井孝徳氏、アロイト・ホームページグループの松江美夫氏、そして最後は「プレスターの父」と呼ばれる元ソニー・コンピュータエンタテインメントCEOの久夛良木健氏が、それぞれに1クォーターを披露した。以下は、藤本教授の基調講演のサマリーである。

いまは「新SDGs」の時代

我が国の言う「ものづくり経営学」とは、言い換えれば「現場の経営学」です。マクロ経済の研究者は上から俯瞰しますが、我々は下から上げる。すなわち、現場の視点で考える。今日はそのような視点からお話ししたいと思います。

さて、SDGs (持続的な開発目標) への注目が見え始めています。ただし、これらは同時に進行していますから、言わば立方根形式を解くことが多く、総合的に考えなければなりません。

まずソーシャル(S)ですが、日本には「三方よし」、つまり「売り手よし、買い手よし、世間よし」という考え方があります。これは、今後2020年代において日本の産業界が保持する強みであり、こうした姿勢があるからこそ、低成長下でもトヨタ生産方式が維持されている、海外でトヨタ生産方式やリーン生産方式がなかなか定着しないのは、こういう考え方が根付いているからです。

サステナブル目標(B)は広範ですが、いま、世界が目指しているのは断続的イノベーションの世界的流行です。我々は、これを基盤として分析せ、たとえば

イベント協賛
セルスフォース ストックコム
snowflake

右カラムに全協賛社名とリンクを設置

本文:3500~4000字程度

ご協賛社・個別レポートページ (有償オプション)

「データクラウド」の実践によって組織をデータ主導型に変革する
Snowflake株式会社
制作：ダイヤモンド社ブランドコンテンツチーム
2020.12.17 13:00

クラウド上のデータプラットフォームを提供するSnowflake (スノーflake、米国カリフォルニア州) は、すべての組織をデータ主導型にすることをミッションに掲げ、2012年の創業から10年足らずで3000社以上の顧客を獲得してきた。Snowflake日本人のトップに、「データクラウド」の実践によるデータドリブン経営について聞いた。

データをサイロから解放し過渡的に分析・活用する

編集部 (以下青文字) : 社社が抱えている「データクラウド」とは、どのような概念でしょうか。

栗原 (以下緑) : データクラウドとは、オンプレミス (自社保有・運用) 環境やデータセンターなどに散在しているデータを、クラウド上のデータプラットフォーム上で一元管理・運用する考え方です。一つの企業、あるいは同一の企業グループにおいても、部門ごと、グループ会社ごとに異なるデータベースやシステム内にデータを保持している、それらを過渡的に分析・活用できる環境になっていない。そのような状態では、日々変化をビジネス環境の中で、データに基づいた意思決定を行うことはできません。

視野を取引先やパートナー企業に広がると、それぞれの企業間でもやはりデータのサイロ化が生じています。分析されてしまったデータをクラウド上の統一基盤に移すことによって、サイロから解放し、過渡的に分析できるようになれば、日々の意思決定にデータを十分活用できます。

さらに、取引先やパートナー企業、顧客企業など外部組織が持つさまざまなデータを組み合わせで分析できるようになれば、自社のデータだけでは見えなかった実態やインサイト (洞察) が見えてきます。そういう世界観をデータエコシステムと私たちは呼んでいます。

問い合わせ先
Snowflake株式会社
〒150-8139
東京都渋谷区渋谷2-24-12
渋谷スクランブルスクエア
https://www.snowflake.com/jp/language

右カラムに協賛社名問い合わせ、リンクを記載

本文:2500~3000字程度

< DQ誌面掲載イメージ >

ご協賛社・個別レポートページ (有償オプション)

ロゴ記載

テクノロジーの支援で顧客体験をビジネスの中心に
「顧客体験をビジネスの中心に」をテーマとする「Adobe Symposium 2018」(APXシンポジウム、2018年9月26日、東京)で発表された、マーケティング、分析、広告、コールセンターなどに関する最新技術の活用方法が話題となった。Adobe Experience Cloud (AEC) を活用する企業はマーケティング担当者も、顧客体験をマーケティングの中心に据えている企業の成功事例も紹介された。

アドビ システムズ

本文:2000~2300字程度

左下に協賛社名、問い合わせ、URLなどを記載

※誌面へのイベント全体のレポートはございません

DQフォーラム実績 (イベント概要)

創刊7周年記念フォーラム LP: <https://promo.diamond.jp/sp/dq-forum7/>

「企業変革なくして価値創造は実現しない『DXを問い直す時』～あなたの会社のDXプロジェクトは成功といえるのか～」

日程	2024年2月8日(木)13:00～18:00(リアル開催) 2024年2月22日(木)13:00～17:20(疑似ライブ配信)		
名称	ダイヤモンドクォーターリー創刊7周年記念フォーラム	14:30	◇協賛講演② データによる意思決定で現場力強化 ～これからの日本式DX経営～
テーマ	企業変革なくして価値創造は実現しない「DXを問い直す時」 あなたの会社のDXプロジェクトは「成功」といえるのか	-	SAS Institute Japan カスタマーアドバイザリー本部 インダストリーソリューション統括部 製造ソリューショングループ 部長 池本洋信 氏
参加費	無料(事前登録制/抽選)	15:00	
主催	ダイヤモンド社 ビジネスメディア局		コーヒーブレイク(休憩)
企画	ダイヤモンドクォーターリー編集部	15:20	◇協賛講演③ バーチャルツイン・エクスペリエンスで繋がる 持続可能なデジタル変革
協賛	アビームコンサルティング SAS Institute Japan ダッソー・システムズ ログラス	-	15:50 ダッソー・システムズ DELMIAブランド ディレクター 藤井宏樹 氏
会場	リアル: 大手町三井ホール	15:50	◇協賛講演④ アジャイルDX ～変化の激しい時代にこそ求められるDX戦略～
申込数	リアル: 307名、疑似ライブ配信: 619名	16:20	ログラス 執行役員 VPoP 斉藤知明 氏
13:00-14:00	◇基調講演 デジタル、AI、量子の未来 量子技術の進歩でデジタルとAIはどう変わるか 東芝 代表取締役 社長執行役員 CEO 島田太郎氏		◇パネルディスカッション ～デジタル偏重のDxから、変革中心のdXへ～ その変革は「未来価値」を生み出すのか
14:00-14:30	◇協賛講演① 製造業における価値創造ドリブンの成長戦略 ～あらゆる産業に関わる業界ならではの知の変革～ アビームコンサルティング DXIビジネスユニット 執行役員 プリンシパル DXIビジネスユニット長 橋 知志 氏	16:20	[モデレーター] 名和高司 氏(京都先端科学大学 教授 一橋BS 客員教授)
		17:50	[パネリスト] 稲継明宏 氏(ブリヂストン Gサステナビリティ戦略統括部門長) 柘植朋紘 氏(キーエンス データアナリティクス事業 G Mgr) 村上由泰 氏(花王 常務執行役員 DX戦略部門 統括)

DIAMOND Quarterly
7TH ANNIVERSARY FORUM

ダイヤモンドクォーターリー
創刊7周年記念フォーラム
2024/2/8(木) 大手町三井ホール(定員200名)
(2/22(木)13:00～17:20(疑似ライブ配信))

企業変革なくして価値創造は実現しない
DXを問い直す時
あなたの会社のDXプロジェクトは「成功」といえるのか

開催概要

日時 会場参加: 2024年2月8日(木) 13:00～18:00 (12:30+α開催予定)
疑似ライブ配信参加: 2024年2月22日(木) 13:00～18:00 (12:30+α配信可能)

名称 ダイヤモンドクォーターリー創刊7周年記念フォーラム

テーマ 企業変革なくして価値創造は実現しない
DXを問い直す時
あなたの会社のDXプロジェクトは「成功」といえるのか

定員 会場200名
疑似ライブ配信200名
※詳細は本日の開催要項にてお知らせいたします。

参加費 無料(事前登録制/抽選)

主催 ダイヤモンド社 ビジネスメディア局

企画 ダイヤモンドクォーターリー編集部

登壇ゲスト

基調講演
島田太郎 氏
東芝 代表取締役 社長執行役員 CEO

協賛講演①
橋 知志 氏
アビームコンサルティング DXIビジネスユニット長

協賛講演②
池本洋信 氏
SAS Institute Japan 製造ソリューショングループ 部長

協賛講演③
藤井宏樹 氏
ダッソー・システムズ DELMIAブランド ディレクター

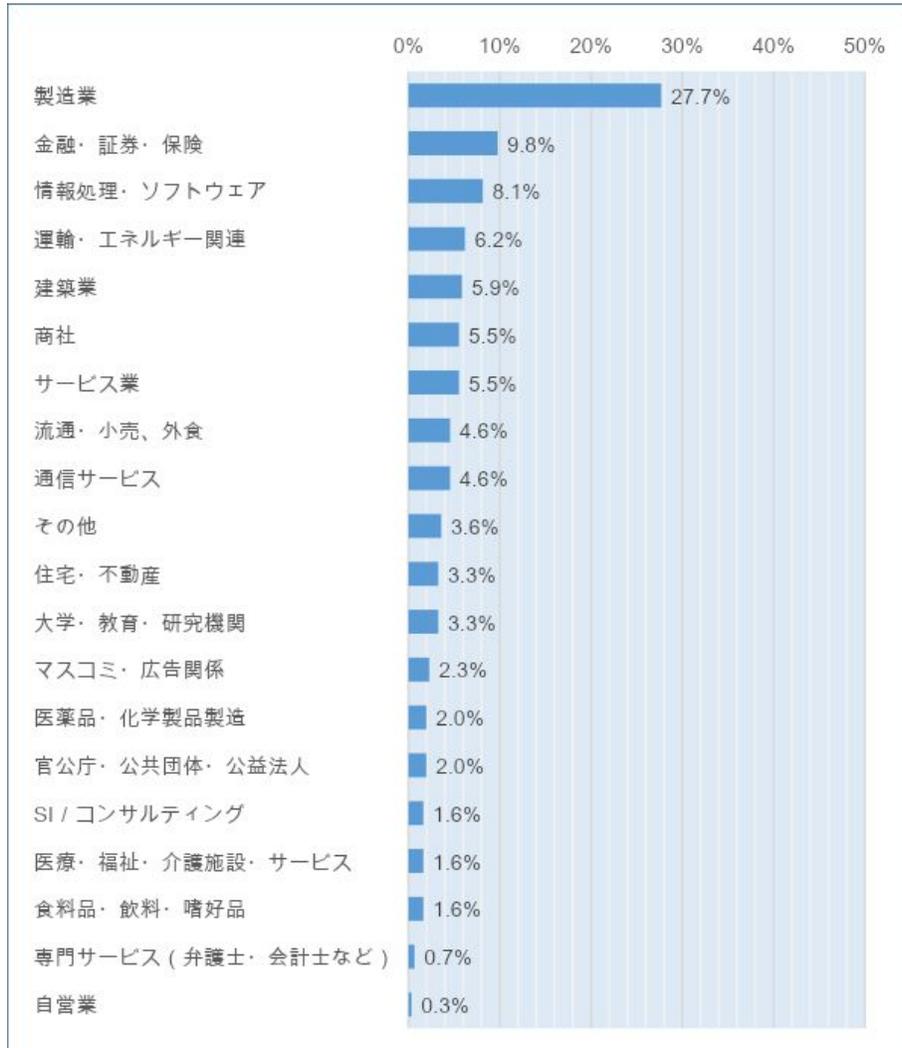
協賛講演④
斉藤知明 氏
ログラス 執行役員 VPoP

パネルディスカッション
[モデレーター] 名和高司 氏(京都先端科学大学 教授 一橋BS 客員教授)
[パネリスト] 稲継明宏 氏(ブリヂストン Gサステナビリティ戦略統括部門長)
柘植朋紘 氏(キーエンス データアナリティクス事業 G Mgr)
村上由泰 氏(花王 常務執行役員 DX戦略部門 統括)

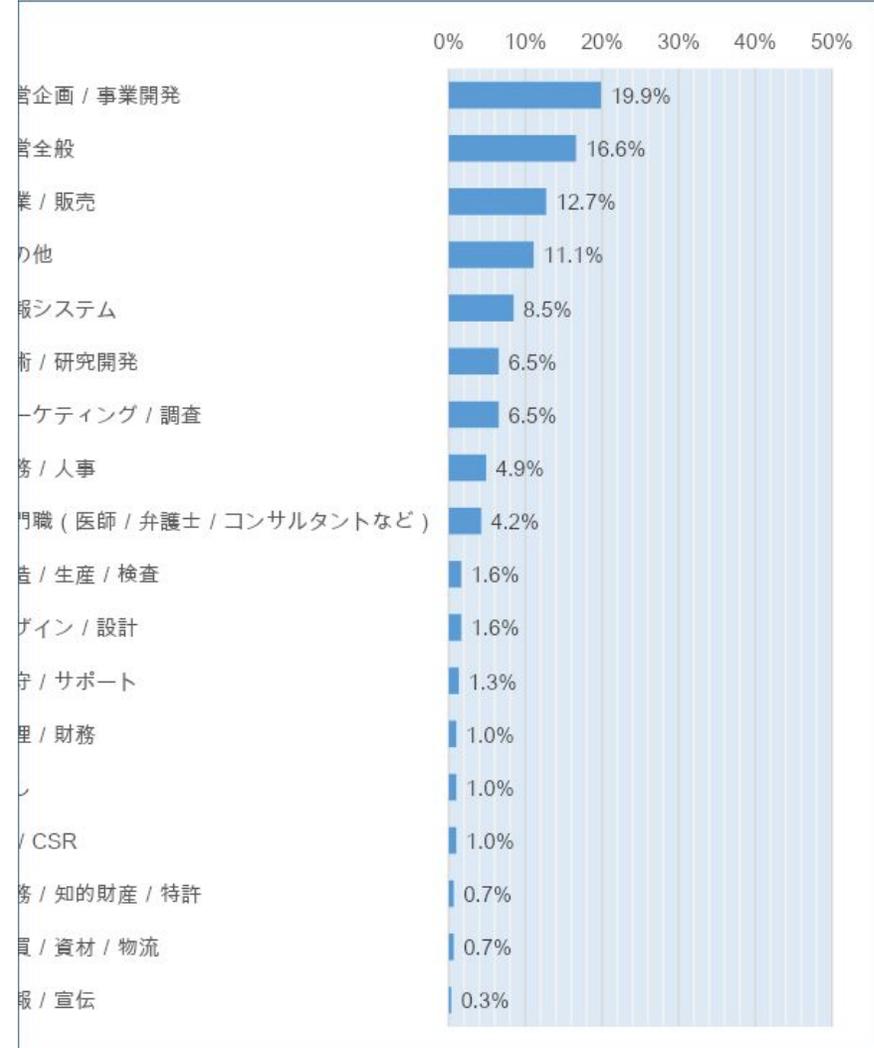
創刊7周年記念フォーラム LP: <https://promo.diamond.jp/sp/dq-forum7/>

「企業変革なくして価値創造は実現しない『DXを問い直す時』～あなたの会社のDXプロジェクトは成功といえるのか～」

【業種】



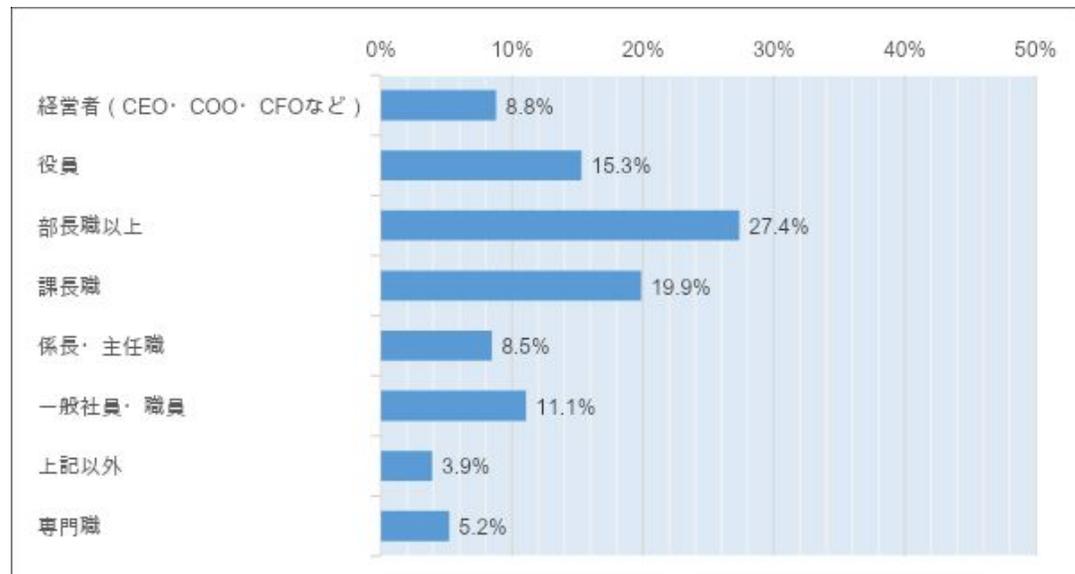
【職種】



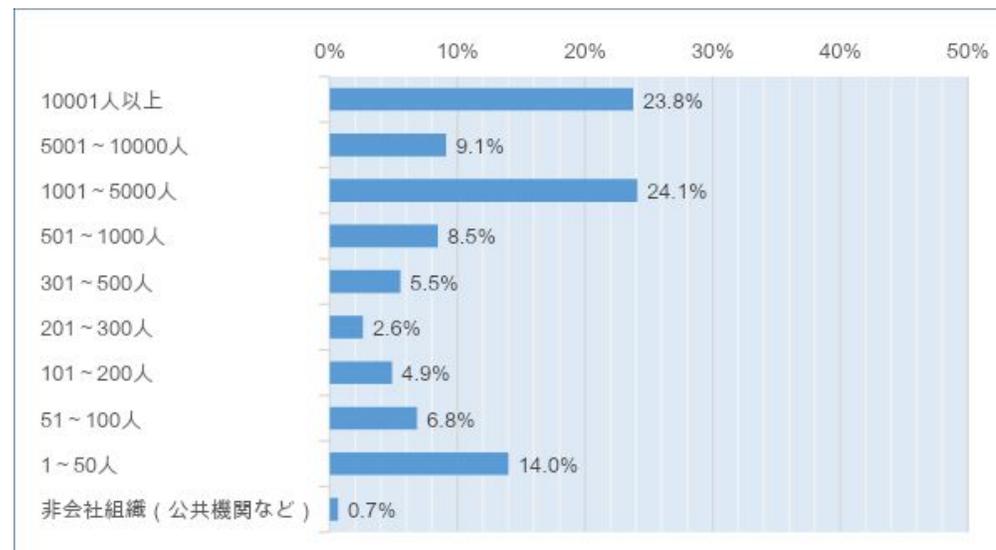
創刊7周年記念フォーラム LP: <https://promo.diamond.jp/sp/dq-forum7/>

「企業変革なくして価値創造は実現しない『DXを問い直す時』～あなたの会社のDXプロジェクトは成功といえるのか～」

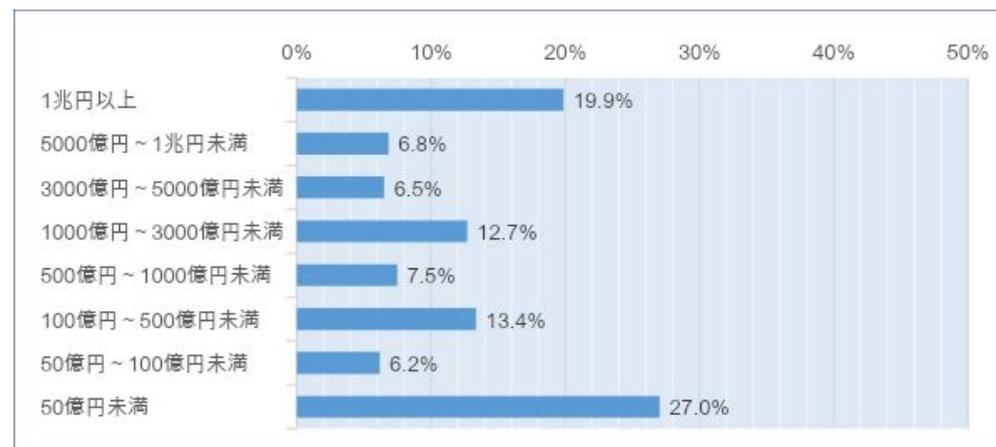
【役職】



【従業員規模】



【売上規模】



創刊7周年記念フォーラム LP: <https://promo.diamond.jp/sp/dq-forum7/>

「企業変革なくして価値創造は実現しない『DXを問い直す時』～あなたの会社のDXプロジェクトは成功といえるのか～」

当フォーラムについてお寄せいただいたご意見やご感想（自由記述／一部抜粋）

- ・キーエンスのお話はさすがという感じで参考になりました。
- ・島田さんの講演は広範囲な分野への造詣が深い話が聞けてとても興味深い内容だった。
- ・DX部門に属して1年になるが、今回テーマ、講演の内容がホットな興味深いもので有意義であった。
- ・たいへん充実したフォーラムでした。企画・運営、ありがとうございました！！
- ・仕事の関係で最後のパネルディスカッションしか出席できなかったがパネリスト各位の取り組みや、DX→dxの考え方が分かってとても興味深かった。
- ・キーエンス柘植さんのお話がうかがえたのはよかった。
- ・社内のDXをDX部門が担っており、トップの意志が十分に反映されているとは言いがたい状況であり、とても参考になった。
まずは戦略を、目的を考えるとどこから共有できるものを見つけ、トップダウンで進めていければと考える。
- ・島田社長のお話は大変示唆に富んで未来志向の内容でとてもためになりました。斉藤さんのお話も、より身近なレベルでいろいろ考えさせられました。
- ・参加者からパネルディスカッションで質問したかった。
- ・色々な業界や分野の方からDXを伺えたので多面的に見ることができ、とても深く知を得ました。
- ・製造業に寄った内容が多く、金融や医療に関するDXについても聞いてみたかったです。
- ・パネルディスカッションが良かったです。次回はもっと多く時間をつかった方がよいと思います。
- ・ダッソーシステム様、ログラス様とても話がわかりやすく、参考になりました。
- ・はじめて参加させていただきましたが、大変有用なトレンド情報の提供をありがとうございました。
- ・中小企業でDXが進んでいない要因が確認出来たと考えています。ありがとうございます。
- ・基調講演の島田さんの前半部分は非常に面白かった。只、もう少し踏み込んだ話をしていただきたいかった。例えば、エントロピーのこととか。
- ・DXを切り口に有益な最新の情報を学ばせていただき有難うございました。
- ・製造業の関係者をメインターゲットにしているようで内容が業務に合致しない側面が多かった反面、DXにおける課題と解決策、またそのキーワードは共通で参考になり勉強になった。
- ・弊社が建設業のため少しセミナーテーマには程遠い立ち位置ではありますが、世の中の状況やトレンドに触れることができました。

【お問い合わせ先】

株式会社ダイヤモンド社 メディア局

〒150-8409 東京都渋谷区神宮前6-12-17

TEL:03-5778-7220

[Mail:web_ad@diamond.co.jp](mailto:web_ad@diamond.co.jp)